

官吏休職條例

第一條 自今官吏休職ヲ得ル者ハ通常三年ヲ

以テ一期ト為シ休職スル後更ニ其本職ニ復

任スルキモノトス後三年毎トシ休職復任ス

ルハ其ノ得ルシハ休職料トシテ其勤績

第二條 休職ヲ得ル者ハ休職料トシテ其勤績

第三年數ヲ算シ滿一年以上ス者ハ現在月給十

十分ノ一ヲ給シ滿二年以上ス者ハ一年毎トシ

十分ノ一ヲ增加ス假令ハ滿十年以上ノ者ハ

十分ノ一ヲ給シ滿二年以上ノ者ハ十分ノ一



半ヲ給シ滿三年以上ノ者ハ十分ノ二ヲ給シ
滿四年以上ノ者ハ十分ノ二半ヲ給スルノ類
但滿一年以下ノ者ハ休職スルコトヲ得ス

第三條 復任三年ヲ經ル後又休職ヲ得ルモノ

第二條 前後ノ勤續ヲ計算シテ休職料ヲ給スハシ

第四條 三年毎トシ休職復任ヲ得ルモノト雖

モ之ヲ行フト行ハサレト或ハ之ヲ短クシ或

ハ之ヲ長クスルカ亦ハ該長官ノ見込ニ在ル

第五條 休職中ノ者ト雖モ公務多端ノ節ハ呼

出シ職務ヲ行ハシムルコトヲ得ハシ其時日

ハ日割ヲ以テ本職ノ月俸ヲ全給ス

第六條 休職中呼出ヲ受ケスト雖モ該官廳ニ

出頭シ事務ヲ補助セんと欲スル者ハ隨意タ

ルハシ但シ其時日ハ別ニ月俸ヲ給セス

第七條 休職中ト雖モ該長官ノ許可ヲ得ルニ

アラサレハ擅ニ他府縣ニ出ルコトヲ得ス

第八條 休職三期ヲ經ルマテ一モ本職ニ復任

セサル者ハ其休職ヲ免シ及ヒ休職料ヲ給セ

第九條 休職中ハ其休職ノ期間ハ十分ノ二ヲ給スルノ類

第九條 給休職料ハ必ス十分ノ五ニ止ルモノトス

前四年ノ平均額ニ其額ノ五ニ至ルノ額ヲ

第八條ノ休職料ニ限リテ算入シ本條ノ額ト

第五條ノ休職料ト計スルニ出休職料ト計ス

第六條ノ休職料ト計スルニ出休職料ト計ス

第七條ノ休職料ト計スルニ出休職料ト計ス

第八條ノ休職料ト計スルニ出休職料ト計ス

第九條ノ休職料ト計スルニ出休職料ト計ス

第十條ノ休職料ト計スルニ出休職料ト計ス

第十一條ノ休職料ト計スルニ出休職料ト計ス

明治三十二年

